



年次報告  
2008

特定非營利活動法人  
SEEDS ASIA



## SEEDS Asia

---

SEEDS Asiaはアジア太平洋地域において、環境問題の改善や防災ならびに災害救援に関する事業を行い、これらの事業を通して、社会全体の持続可能な発展や人間の安全保障の確保に寄与することを目的としています。

SEEDS Asia は2006年9月より特定非営利活動法人として活動しています。

### キーワード

人間の安全保障

防災と開発

環境問題

アジア太平洋地域

### 目的

環境問題や災害に強いアジアにおける安全で持続可能なコミュニティづくり



### 組織の特徴

- 防災、環境、開発分野の若い専門家集団です。国籍もさまざまです。
- 学際的なアプローチで防災や環境問題にとりこんでいます。
- アツイところとクールなあたまで活動しています。
- アジア太平洋地域に特化した活動をしています。
- 神戸を拠点にしていますが、多文化な環境で仕事に取り組んでいます。
- 現地の社会経済状況、文化、政治的背景に配慮することを心がけています。
- 地元の知恵や知識・ノウハウを最大限利用し、地域にあった解決策を模索します。
- 現地カウンターパートと強い人間的ネットワークと相互信頼を築きます。
- 問題の発見とその解決策は当事者である地元の人々主導でおこないます。
- 研究、教育、プロジェクト実施が相乗効果的につながることをめざしています。
- 持続的で革新的なアプローチを取り入れています。

### 活動分野

- コミュニティベースの災害リスク管理
- 防災と環境教育
- コミュニティベースの気候変動への適応
- 都市のリスク問題: 環境管理や防災 (廃棄物管理、水資源管理)
- 人間の安全保障と持続可能な開発
- 貧困削減と防災
- 災害と環境管理に関する研究と政策対話



### 2008年の主な活動 調査・研究

#### 都市部での災害リスク軽減に関する研究 (国連国際防災戦略)

アジア地域の都市部での災害の傾向とそれに対する対処法についての調査・研究を行うという目的で実施されました。調査方法としては、アジア地域各国の政府やNGO、国際機関等が現在あるいは過去に実施した都市部での防災リスク軽減に関する事業内容を収集し、それらのケースをまとめ、分析しました。さらに、そうした分析に基づいたレポートを作成し、今後のアジア地域の都市部でのリスク管理に対する方向性を導き出しました。

#### 防災におけるメディアの役割に関する研究

防災におけるメディアの役割に関して、日本と海外の災害被災地の事例を研究しました。震災直後から防災番組を継続しているテレビ局、ラジオ局、コミュニティラジオ局、新聞社でのインタビューを通して、視聴者の立場に立った防災番組作成の成功事例をまとめました。

#### その他調査研究事業

コミュニティ防災、防災の地域土着の知恵、各被災地の復興プロセス等に関する調査研究を実施しました。



防災におけるメディアの役割に関する調査・研究



## SEEDS Asia

### 2008年の主な活動 知識の普及事業

#### G8環境大臣サミットへの出展

5月に神戸で開催されたG8環境大臣サミットを記念して、環境関連NPO/NGOが一堂に会するイベントが行われました(24-25日於ポートアイランド)。SEEDS Asiaもブースを出展し沢山の来場者との談話やモルディブでの活動報告等を行いました。



#### J:COMの地域番組の収録

ケーブルテレビ会社J:COM様の地域情報番組『ホームタウン神戸・芦屋』でSEEDS Asiaの活動を紹介して頂きました。打ち合わせ後、2時間程度の収録を行いました。SEEDS Asiaの設立時の事や活動をする上での私たちの思いなどが収録されています。少しでも多くの方々にSEEDS Asiaの事を知って頂く貴重な機会となりました。



#### 水と防災展への出展

2008年9月から人と防災未来センターで行われた企画展「水と防災」へモルディブでの海面上昇やミャンマーでのサイクロンに関するパネルや写真を出展しました。





## SEEDS Asia

### 2008年の主な活動 知識の普及事業

#### ジャパン・プラットフォーム活動報告会での発表

2009年1月23日金曜日の15時から17時、ジャパン・プラットフォーム(JPF)主催の「ミャンマー・サイクロンと中国・四川地震被災者支援報告会in関西」が大阪大学・中之島センター7階講義室2で開催され、地方行政や企業関係者、NGO、記者、研究者等、合計で50名余りが報告会に出席しました。第1部では、JPFのミャンマー・サイクロンおよび中国・四川地震プログラムについてSEEDS Asiaを含む4団体が報告しました。また、同報告会では、SEEDS Asiaが会場設営、議事進行等の全体のアレンジを担当しました。



#### FMわいわい公開ラジオ番組出演

1月17日に震災から14年を迎え、「1.17KOBEに灯りをinながた」がJR新長田駅前で行われました。そのイベントの1つであるFMわいわいさんの公開ラジオ番組にSEEDS Asiaから職員2名が出演しました。SEEDS Asiaの団体説明から始まり、当時モルディブで実施中であったSelamatプロジェクトに関する説明や、その後実施予定であったメディアワークショップに関しても広くアピールすることができました。





## SEEDS Asia

### 2008年の主な活動 知識の普及事業

#### SEEDS Asia第一回活動報告会開催

SEEDS Asiaの第一回活動報告会を1月29日に神戸で開催しました。報告会開催に先駆けて、1月27日付けの神戸新聞にSEEDS Asiaのミャンマー、モルディブでの活動および当報告会の予告が掲載されました。報告会当日には、最初にSEEDS Asiaの発足からこれまでの活動を紹介し、それに続いてミャンマーでの活動およびモルディブでの活動を報告しました。各プレゼンテーションの後には、参加者との間で質疑応答および意見交換を行い、参加者から活発な質問や意見交換がなされました。



#### デリーでのACT AHEAD 国際会議出席・発表

SEEDS India主催の防災と環境に関する国際会議がインドのデリーで2月23-25日の3日間に渡って開催されました。気候変動、コミュニティ・ライフライン、持続可能な都市、および災害に強い地域づくり、という4つのテーマ別セッションが実施され、SEEDS Asiaとミャンマーで協働したミャンマー工学会のウー・タン・ミン氏による発表では、ミャンマーでのSEEDS Asiaとの活動も紹介されました。また、2日目に最後実施されたパネルディスカッションでは、SEEDS Asiaがレポーターを務めました。





### 2008年の主な活動 人材育成プロジェクト

#### アフガニスタンにおけるコミュニティ・ベースの災害リスク管理 ( CoARとの共同助成事業 )

2007年12月よりアフガニスタンのNGOであるCoAR (Coordination of Afghan Relief)とともに、Badghis省Qala -e-Naw県において、災害に対する脆弱性を軽減することを目的とし事業を展開してきました。事業対象の省における50の村での事前調査、現地政府および非政府組織との連携調整、および活動の拠点となるナレッジセンターの設立等を土台として、河川流域管理に関する地元民の意識向上、村長や農民、村の学校教員、女性グループ等への防災訓練を実施しました。

特にコミュニティにおける災害リスク軽減ワークショップでは、のべ25コミュニティ、350人が研修を終了し、防災概念の普及が促進されました。同ワークショップでは、防災の基本概念やアフガニスタンの災害情報、Badghis 省の災害情報に関する講義を行い、グループワークで理解の促進を図りました。その結果、参加者は防災概念、災害の発生要因、災害管理サイクル、コミュニティ防災における住民の役割に関する理解を深めました。また研修を終了した教員が各学校で防災授業を実施し、約2000人の子どもたちが防災について考える機会を与えられました。

さらに、村単位の防災管理計画の策定や、HIV/AIDS、ジェンダー、環境問題等への計画策定、およびラジオや地元テレビを介した情報伝達により、地域の防災能力の向上を図りました。



防災訓練の様子



2008年の主な活動  
人材育成プロジェクト

### 沿岸コミュニティの災害リスク軽減のための人材育成事業 – プロジェクト SELAMAT (国連国際防災戦略助成事業)

モルディブはインド、スリランカの南西約600kmのインド洋上に、南北754km、東西118kmにわたって縦長に広がる26の自然環礁(アトール)から成り立つ島嶼国です。そのため同国は気候変動の影響を最も受ける国の一つです。海面情報とそれに伴う高波などの災害リスクは、国土の80%が海拔1メートル以下という同国にとって大きな懸念事項となっています。2004年12月26日に発生したインド洋津波は多くの島々に人的・物質的被害をもたらしました。

しかしながら、モルディブの島々では防災計画を持っているところはほとんどなく、災害に対して非常に脆弱です。SELAMATプロジェクトでは、シャビヤニ環礁の5島を対象に、環礁レベルの防災計画、また島ごとの防災計画を現地の関係者とともに作成するとともに、一つの島(ミランドゥー島)で災害リスク軽減のためのモデル事業を実施してきました。モデル事業では、沿岸侵食を防止するためのバイオシールドプロジェクト、自宅の庭を利用したキッチンホームガーデン促進プロジェクト、ITを利用したコミュニティ情報センタープロジェクト、島での深刻なゴミ問題に対処するための廃棄物管理プロジェクトを実施しました。

特に地球温暖化の影響による高潮等の被害を受けやすいことから、自然災害による環境汚染の拡大も懸念されています。そこでワークショップ等を通じて住民と共に島内の環境問題について考え、対策のための計画を策定し実行することにしました。住民の環境問題意識を高める為、年間を通じ参加型のワークショップを行い、また家庭菜園で利用できるコンポストによる廃棄物の堆肥化などについての知識を提供することで、家庭におけるごみの分別およびリサイクル活動が効果的に行われ、廃棄物の減量が期待され、また環境汚染の改善にもつながります。



住民たちが作ったごみ収集所



家庭菜園の普及



### 2008年の主な活動 人材育成プロジェクト

#### 防災メディア番組作成のための人材育成トレーニング (国連国際防災戦略助成事業)

SEEDS Asiaは、生活者が自らの暮らしを守る力を養うことが大切だとの思いから、2008年7月から2009年5月にかけて、“防災におけるメディアの役割”に着目し、メディア関係者による国民への情報発信能力向上を目的とするトレーニングプロジェクトを実施しています。モルディブの地理的特徴、人々の興味関心と暮らし、モルディブ国家の方針など様々な条件を建設的に企画に織り込みました。

事業では、ハンドブックおよびトレーニング内容を現地ニーズに則したものにするため、首都マーレでメディア関係者に対するニーズ調査を実施しました。また、トレーニング時の使用に適したハンドブックを目指し、より実践的な教材の開発を行いました。こうした活動を踏まえ、2009年3月10日から12日までの3日間、モルディブ共和国首都マーレにて、メディア(テレビ・ラジオ・新聞)関係者を対象に、防災意識向上および防災番組作成のためのトレーニング・ワークショップを実施しました。さらに、ワークショップ開催後には、国営ラジオ局Voice of Maldivesおよびテレビ局TV Maldivesのスタッフと防災番組の作成を2日間で行いました。番組作成はワークショップ3日目に作成した進行表をもとに行われました。番組のタイトルはHeylamma!(現地ディベヒ語で「目を覚まそう!」という意味)に決定され、広く一般の人々の防災意識向上を目標とした番組内容となりました。



グループワーク(問題分析)



防災番組収録風景



## SEEDS Asia

2008年の主な活動  
人材育成プロジェクト

### ミャンマー・サイクロン被災者支援事業 (ジャパンプラットフォーム助成事業)

2008年5月2日、3日、ミャンマーを襲ったサイクロン・ナルギスは、風速毎時200キロメートルのスピードで、エーヤワディー川(イラワジ川)デルタ地域と同国の主要都市で旧首都のヤンゴン(ラングーン)を通過しました。エーヤワディー、ヤンゴン両管区が最大の被害を受けました。デルタ地域の被災がもっとも激しく、強力な風にひどい大波を伴い、家屋の95%を破壊したと推測されています。当初国連が150万人と推定していたこのサイクロンによる被害は、240万人(OCHA ReliefWeb)という数字に達しています。

災害リスクを削減するには、復興と修復の過程自体に対策が組み込まれている必要があります。そのため、初期段階からの対策により、将来の災害リスクを可能な限り削減することができます。被災地の状況や過去のアジア地域での同状況を鑑み、仮設住宅は今後一般住居として使用されることが予想されます。災害に強い住宅建設の為に、仮設住宅建設時からの技術支援が重要であると私たちは考えています。

6月初旬に行った初動調査をもとに、ジャパン・プラットフォームの助成金を受け、8-9月の2カ月にわたるプロジェクト「サイクロン被災者向け仮設住宅建設の技術支援及び人材育成事業」が実施され、成功裏に幕を閉じました。9月の22日から27日の6日間にわたり、政府高官や地方役人、また建設会社役員等を集めての防災政策協議の為のワークショップ(22-23日)と地元の大工等の建設業務従事者の建設知識・技術向上のためのワークショップ(24-27日)が開催され、SEEDSのメンバーによる日本の防災政策の紹介や防災建築技術トレーニングなどが行われました。

防災政策協議の為のワークショップには、ミャンマー政府からは社会福祉省大臣がお越しになり、オープニングのスピーチでSEEDS Asia の行っているような災害復興活動の重要性を指摘され、また在ミャンマー日本大使館からは野川大使がオープニングスピーチにてSEEDS Asia の活動を激励されました。



SEEDS Asiaの発表



モデル住宅での研修風景



## SEEDS Asia

### 2008年の主な活動 人材育成プロジェクト

#### ジョグジャカルタ特別州バントウル県サンデン郡における学校教員の防災教育実施訓練事業 (ジャパンプラットフォーム助成事業)

2006年5月27日のジャワ島中部地震の被災以来、インドネシア・ジョグジャカルタ特別州では国内外の多くの支援団体が緊急支援を経て学校防災教育の普及に焦点を当てた支援活動を行っています。

SEEDS Asiaのスタッフは2008年の10月15日から24日にかけてジョグジャカルタ特別州を訪れ、最も被災被害の大きかった県の一つであるバントウル県で、学校防災教育の現状や他団体の支援活動について、県教育局や現地NGO、および学校職員に対する聞き取り調査を行いました。そうした事前調査の中で、様々な団体が学校防災教育に関する訓練のためのワークショップや質の高い学校防災教育用の教材の作成およびバントウル県全土への配布を完了していることが明らかになりました。しかしながら、そうした数多くの訓練ワークショップの実施や質の高い教材の配布が行われたにも関わらず、聞き取り調査中に明らかになったもう一つの事実は、実際に学校防災を実施している学校数は未だにわずかであるという状況でした。

こうした現状を鑑みた際に、学校教員の防災教育実施能力の養成、および県・地方当局や学校教育関係者等の防災教育の重要性認知度の向上および防災教育実施への理解促進が課題であると考えられます。

SEEDS Asiaは、ジョグジャカルタ特別州バントウル県サンデン郡を事業対象地と定め、当該対象地における教員の防災教育実施能力の養成を事業目的とし、学校現場での教員の防災教育実施訓練の実施を軸として事業を展開してきました。また、教員訓練を援助・促進するために、教員が防災教育実施の際に参考とするための「防災教育手引書」の作成・配布、県・地域教育関係者の防災教育に対する理解を促進するためのワークショップ開催準備を進めてきました。



アクション・プラン作成のためのワークショップ



教員との協議



## 特定非営利活動に係る事業 会計収支計算書

特定非営利活動法人SEEDS ASIA

(単位：円)

自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日

(資金収支の部)		
I 経常収入の部		
1 会員会費収入		
正会員会費収入	80,000	
賛助会員会費収入	30,000	
2 補助金・助成金収入	22,530,582	
3 事業収入	1,709,294	
4 寄付金収入	500,551	
5 受取利息収入	9,783	
6 雑収入	254,635	
経常収入合計		25,114,845
II 経常支出の部		
1 事業費		
給料	7,537,200	
外注費	5,125,705	
旅費出張費	4,501,379	
消耗品費	1,384,940	
通信費	493,872	
荷造運送費	145,495	
法定福利費	779,164	
支払手数料	729,225	
図書資料費	4,200	
トレーニング費	2,038,221	
印刷費	353,903	
雑費	111,886	
事業費計	23,205,190	
当期事業費合計		23,205,190
2 管理費		
水道光熱費	84,856	
修繕費	9,975	
地代家賃	816,000	
保険料	12,552	
租税公課	288,655	
諸会費	102,000	
支払手数料	420	
雑費	298	
管理費合計		1,314,756
経常支出合計		24,519,946
経常収支差額		594,899
III その他資金収入の部		
その他資金収入合計		0
その他資金支出合計		0
当期収支差額		594,899
前期繰越収支差額		711,988
次期繰越収支差額		1,306,887
(正味財産増減の部)		
V 正味財産増加の部		
当期収支差額	594,899	
正味財産増加の部 合計		594,899
VI 正味財産減少の部		
正味財産減少の部 合計		0
当期正味財産増加額		594,899
前期繰越正味財産額		711,988
当期正味財産合計		1,306,887



特定非営利活動に係る事業会計財産目録

(単位: 円)

特定非営利活動法人 SEEDS ASIA  
全社

平成21年 3月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

現金	23,750	
普通預金		
三井住友銀行三宮支店	2,005,014	
三井住友銀行岡本支店	6,038,607	
現金・預金計	8,067,371	

(売上債権)

未収金	2,155,732	
売上債権計	2,155,732	

(その他流動資産)

前払費用	9,410	
その他流動資産計	9,410	

流動資産合計

10,232,513

【固定資産】

(投資その他の資産)

保証金	50,000	
投資その他の資産計	50,000	

固定資産合計

50,000

【繰延資産】

繰延資産	250,000	
------	---------	--

繰延資産計

250,000

資産の部 合計

10,532,513

《負債の部》

【流動負債】

未払金	1,504,638	
前受金		
人材育成事業	7,566,535	
預り金	154,453	

流動負債計

9,225,626

負債の部 合計

9,225,626

正味財産

1,306,887



**特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表**

特定非営利活動法人 SEEDS ASIA  
 全社

(単位：円)

平成21年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【流動資産】</b>		<b>【流動負債】</b>	
(現金・預金)		未 払 金	1,504,638
現 金	23,750	前 受 金	7,566,535
普通 預金	8,043,621	預 り 金	154,453
現金・預金 計	8,067,371	流動負債 計	9,225,626
(売上債権)		<b>負債の部合計</b>	<b>9,225,626</b>
未 収 金	2,155,732	<b>正味財産の部</b>	
売上債権 計	2,155,732	<b>【正味財産】</b>	
(その他流動資産)		正味 財産	1,306,887
前払 費用	9,410	(うち当期正味財産増加額)	594,899
その他流動資産 計	9,410	正味財産 計	1,306,887
流動資産合計	10,232,513	<b>正味財産の部合計</b>	<b>1,306,887</b>
<b>【固定資産】</b>			
(投資その他の資産)			
保 証 金	50,000		
投資その他の資産 計	50,000		
固定資産合計	50,000		
<b>【繰延資産】</b>			
繰延 資産	250,000		
繰延資産 計	250,000		
<b>資産の部合計</b>	<b>10,532,513</b>	<b>負債・正味財産の部合計</b>	<b>10,532,513</b>



### SEEDS Asia 役員

理事長	ラジブ ショウ	京都大学大学院地球環境学堂 准教授
副理事長	マヌ グプタ	SEEDS India 事務局長
理事	中川裕子 アンシュ シャーマ 吉積 巳貴	SEEDS Asia 事務局長 SEEDS India 事務局長補佐(企画戦略) 京都大学大学院地球環境学堂 助手
監査	永井道子	神戸YMCAスタッフ

### SEEDS Asia 事務局

〒658-0072 兵庫県神戸市東灘区岡本2-11-21-401  
Tel: 078-766-9412  
Fax: 078-766-9413  
Email: [rep@seedsasia.org](mailto:rep@seedsasia.org)  
Website: <http://www.seedsasia.org>